復興にむけて

仙台市立荒浜小学校

荒浜にセブンイレブンができたんだって。」

喫茶店もあるらしいよ。」

「まどか」もどこかで再開したんだって。」

なぜ荒浜で始めたのかな。」

どんな人が来るんだろう。」...

五月に子供たちと話し合い、総合的な学習の今年のテーマを決めました。

荒浜の「今」を調べよう」です。

荒浜小学校は、東日本大震災で大きな被害を受けました。多くの地域の方も津波にのまれ、

犠牲になりました。

が直接行ってインタビューしたり、インターネットを活用したりして調べる活動を行いまし 今の荒浜で、どんな人々が、どんな思いを持って、どんな活動をしているのかを、子供たち

そして、その中で分かったことや子供たちなりに考えたことを発表することにしました。

六月二日金、取材で荒浜地区へ行きました。

然に駆け足になって、階段を一気に駆け上がりました。 深沼橋から車を降りて歩き、荒浜海岸へ向かって歩きました。子供たちは海岸に近づくと、自

かわらず美しい海を見て、子供たちは「うわあ。」と歓喜の声を上げました。

そこで、荒浜で再開している店を発見しました。子供たちの取材が始まります。

子供たちは、こんな感想を話していました。

荒浜の海に久しぶりに来て、海岸清掃や凧揚げのことを思い出しました。 ○貞山堀から走って海に行きました。荒浜の海についたら、海風がとても気持ちよかったです。

津波の高さにしたのは、その高さを忘れないためです。となりには石碑があって、いろいろな くなった人がいるとは思わなかったです。 人の名前が書いてありました。津波で亡くなった人がいることは知っていたけど、こんなに亡 慰霊碑の仏様は観音像だそうです。慰霊碑はすごく高くて、津波が来た高さだそうです。

五年やっていました。どちらも津波で流されたそうです。自分の故郷のつもりで、荒浜でまた うです。お客さんの七割くらいは毎日来るお客さんで、平日の昼にお客さんが多いそうです。 セブンイレブンを始めたそうです。毎日来るお客さんといろいろな会話ができることが、嬉 前の荒浜のセブンイレブンは二十五年、店長さんの営業していた蒲生のセブンイレブンは十 ○セブンイレブンに来るお客さんは一日五百人くらいで、復興の仕事をしている人が多いそ しいと言っていました。

子をあげたりして、みんなに気軽に利用してもらえるように「お店』にすることにしたそう をもらえる場所が「希望」だと思うので、これからもがんばってほしいです。 です。みんなの家の茶の間のつもりだそうです。喫茶店をしていて一番嬉しいことは「おなか か」と思ったからだそうです。ボランティアの人に水やお茶を飲ませてあげたりパンやお菓 ってほしくてAさんは「希望」という喫茶店を始めたんだと思いました。荒浜に来た人が元気 いっぱい」また来ます」と言ってもらえることだと言っていました。私は、みんなに元気にな ○Aさんがなぜ荒浜で喫茶店を始めたのかというと、「荒浜で自分にできることは何かない

いました。しかし、荒浜は、一歩一歩、復興に向けて確実に歩んでいます。 震災から約二年半の月日が流れました。多くの人が亡くなり、多くの人が悲しみに暮れて

それは、希望を捨てずに前を向いている人たちがいるからです。

し、未来へ向けて生きる人々への希望となっていくのです。 のと同じように、私たちも努力することを忘れてはならいのです。その姿が、他の人を元気に 働く人々の姿から希望をもらうことができます。被災者の方が復興に向けて努力している